

KiKiの広場

2023年 4月 1日
cafe NO.150
KiKi



コロナ禍になって丸3年。中学生や高校生はまさしくコロナの真っ只中での学校生活。この春卒業した学生さんの答辞の中に、校歌を歌ったことがないという言葉がありました。この言葉に愕然としました。大抵の人は、小中高の校歌を今でも口ずさむことができるのではないのでしょうか。学校で事あるごとに歌ったからこそ、何十年経っても歌えるのだと思います。それほど学校というところは、大小様々な行事があるということです。それが殆どできなかった学校生活、どれほど我慢させられたのかが改めてよくわかりました。中高生のみなさんだけが経験した私たちには想像すらできない耐え続けた3年間、そんな中でも得たものや学びもたくさんあったのではないのでしょうか。きっときっと将来に活かされると信じて、前を向いて進んでほしいと願っています。

新型コロナ第8波は、そろそろ収束してきたようですが、専門家はこれが「終息」ではないと言っています。私たちもこの3年間で学んだことを無駄にせず、明るい未来に向かって頑張っていきたいと思います。

4月の予定

休館日	11日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
12:30開店	12日(水)・14日(金)



「気まぐれシェフのKiKiオリジナルシフォンケーキ」
「桜のシフォンケーキ」・・・300円

桜あんを練り込んだ、ほんのり桜の香りがする春にピッタリな♡ふわふわウキウキシフォンケーキです。優しい春の味をお楽しみください



0) 今月のお気に入り・・・「春っていいなあ の絵本」

～「春のうたがきこえる」「たんぽぽはたんぽぽ」「おやゆびひめ」「春」「春のわかれ」「ねこのなまえ」「さくらがさくと」など～



「春のうたがきこえる」は、21歳でヨーロッパに渡りそのままパリに移住して、独学で絵本作家になった市川里美さんの作品です。何気ない春の1日が優しく繊細に描かれています。五感で感じられる春の魅力がギュッとつまった絵本です。おくはらゆめさんの「たんぽぽはたんぽぽ」は、春の息吹・生命力の力強さを感じます。これから一歩前に進もうとする人に、ぜひ読んでもらいたい絵本です。



今月の本棚・・・「木っていいなあ の絵本」

～「さんぽのき」「木をかこう」「木はいいなあ」「森の絵本」「はるにれ」「木のうた」「ふしぎなふしぎなまほうのき」など～



「さんぽのき」は、文がサトシンさん、絵は真珠まりこさんで、東日本大震災の復興を願う絵本です。歌もあります。「いっぽにほさんぽさんぽのき」という楽しいリズムと絵の優しさに心を打たれます。全ての人に、「さんぽのき」が見つかることを願っています。「木をかこう」は、国際的なアーティストブルーノ・ムナーリ作です。絵本というより、木の描き方をガイドしてくれる本です。シンプルですが、幹や枝の規則を説明しながら様々な表現方法で描いています。ムナーリは、形にとらわれない自由な発想と夢のある楽しさを追求し、色々な分野で作品を残しています。他の作品も見てみたくになります。



ほっとフレイク

ヒストリアのアイドル!! その11 春休み編・・・今年度最後の幼稚園で担任の先生やクラスが変わってしまうお友だちとの別れで、号泣したというアイドルKちゃん。子どもの1年間って、本当にもんすごい成長ですね。びっくりします。大人とえらい違いです。(^_^) とっても仲良しの男の子と違うクラスになってしまって、可哀そうだなと心配のお母さんKさんに、「私たちは仲良しだから離れても大丈夫。」ときっぱり言ったKちゃん。これまたびっくりのKさん。子どもってどんだけ成長するんでしょうか? 本当にもんすごいですね。

今回も春休みなので一緒にカフェに出勤しているKちゃん。1年前、イベントホールで歌う歌は、「チューリップ」でしたが、今回は「ポケモン」でした。指パッチンしながら(音はでないけど)ポーズを決めて歌うKちゃんに、大笑いしてしまいました。お母さんの仕事が終わって帰ろうとするKちゃんに、「一人ぼっちになって寂しいから、泣いちゃうよ。」と言うと、「火曜日にまた来るからね。」と慰められました。どんどん成長するKちゃんの姿に、ちょっぴり寂しさも感じつつ、孫をみるような想いで嬉しく思いました。

